

インドネシアは、東南アジア南部に位置し世界第4位の人口2億7000万人を有する国家だ。東亜建設工業が施工を担当した大規模劇場があるバリ州は同国の第一級地方自治体(Daerah Tingkat I)であり、九つのKabupaten(県)と呼ばれる第二級地方自治体(Daerah Tingkat II)で構成されている。

大規模劇場建設工事の発注者であるバドゥン県は、バリ州の中央に位置し、南北に細長く広がる。ビーチリゾート地として知られるクタ、レギャン、ジンバラン、ヌサドゥアが点在し、空の玄関であるデンパサル国際空港を擁するなど、観光収入による財源が豊富な自治体として知られている。

本工事はバドゥン県政府庁舎敷地内において、多目的に利用できる芸術劇場を建設するもの。その建物の外観はバリの伝

海外建設協会

プロジェクト便り

◆インドネシア

大規模劇場建設工事

東亜建設工業

地元企業と協業し技術継承

統的なデザインが目を引く。さまざまな用途に使用できるステージと2500席の客席を有する。

地方自治体発注の案件では、最大の特徴として、瓦葺の寄棟とれんが仕上げの外壁が挙げられる。寄棟屋根の棟部分には独特な装飾が施されている。

建物入り口の両側に配置される階段室には、「Bale Kulkul」を模倣したデザインを取り入れている。これはコミュニケーションにサインを与えるためのコミュニケーション手段として機能する現地特有のオブジェクトだ。バリ古来の通信手段兼建造物であり、日本でいうところの「鐘楼」「半鐘」のようなものにあたる。内装には各所に象徴的なデザインを採用

バリの伝統的な形状が目を引く劇場の外観

新たなランドマークで地域発展に貢献



現地の工芸職人の手による装飾が特徴的な客席空間と多様な機能を有する舞台

「RIGGING」と呼ばれる装置を配置。舞台の演出に応じて機器の昇降に用いられる。

音響関係では大型メインスピーカー・サブスピーカーを設置。高音域・中音域・低音域とそれぞれの分担音域をカバーし、全体の音響バランスの最適化を図っている。

本案件では日本企業が参画することに対し、品質・工程・安全面での施工管理はもちろん、地元建設会社への技術継承の期待が特に大きかった。無事に竣工を迎えることができ、発注者からも高い評価を得られた。

し、現地の工芸職人の手によって制作されている。劇場では多目的な用途に対応するため、さまざまな専門機器が用意されている。舞台正面には大型のLEDパネルを配置し、ステージ床には大小計四つのリフトが配置されている。演劇の演出や機材の昇降などに使用される。

ステージ上部には照明・スピーカー・暗幕等をつり下げる、(国際事業本部ベトナム事務所長・河村匡樹)